

目指す学校像	（１）生徒が学ぶ楽しさ、わかる喜びを味わえる学校 （２）教職員がやりがいと誇りを持てる学校 （３）保護者・地域から信頼される学校
重点目標	１ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教科横断的な学習指導の実現 ２ 生徒理解に基づく教育相談・生徒指導と心の教育の充実（多様性の尊重） ３ 学校・家庭・地域と連携・協働する「地域とともにある学校づくり」の実現 ４ 学び続け、組織として行動する教職員の育成

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標								実 施 日 令 和 7 年 2 月 2 0 日	
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 な 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	学 校 運 営 協 議 会 か ら の 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等	
1	<現状> ・全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との差は、国語では-1.8ポイント、数学では-4ポイントであるが、年々その差は縮まっている。 ・全国学力・学習状況調査の平均無回答率が、市や全国と比べ高い。 ・全国学力・学習状況調査の生徒質問紙で「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった」と回答した生徒の割合が全国と比べ、国語・数学共に約8ポイント高い。 ・授業態度に落ち着きがあり、与えられた課題に対して真面目によく取り組んでいる。 <課題>・「学校以外での学習時間」は、1時間以上と回答する生徒の割合が、県に比べ、12ポイント以上少ない。家庭学習の取組が課題となる。 ・「授業で学んだことを、他の学習で生かしている」「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりする」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげているか」について、全国学力・学習状況調査質問紙の結果から県や全国に比べ、やや下回ることから、定着を図ることが課題である。	・主体的に学ぶ生徒の育成 ・話し合う活動を通して、考えを深める生徒の育成 ・教科横断的な学習指導の実現 ・「個別最適な学び」の実現 ・諦めず最後まで「書くこと」のできる生徒の育成	・全教諭が「学びの指標 主体的な学び」を踏まえた授業を実施する。 ・また、「探究的な学び」を踏まえた授業を実施する。 ・「基礎的な授業スキル」について、教科・学年を越え相互に参観することで学習の質的向上を図る。 ・チャレンジスクール主催のテスト前の学習の参加を呼び掛ける。 ・授業や定期テストに書く課題を意図的に取り入れる。	・「学びの指標」における結果が、1回目より2回目が向上している。 ・教員同士の相互の授業参観が年2回以上実施できたか。 ・調査結果の分析や学力向上カウンセリングを踏まえ、授業改善の視点、手立てを教科ごとに設定することができたか。 ・学校評価生徒アンケートで「主体的な学習」について肯定的回答が75%以上か。	・「学びの指標」1回目より2回目が向上【主体的な学び】62.5%【探究的な学び】87.5%【基礎的な授業スキル】70.8%となり向上が見られ良好である ・教員相互の授業参観は、教科間を中心に実施でき、課題を見つめるよい研修の機会となった。 ・教科会を定期的に実施する時間を確保したことで、個別最適な学びや教科横断的な学習指導についての授業改善の手立てを設定でき、授業に活かすことができた。 ・生徒の「主体的な学習」について肯定的回答が77%となり、生徒の学び方も変化が現れ取組が定着し始め良好である。	B	・教員同士の授業参観を各学期1度は計画に入れ、学びの指標結果等を元に毎回テーマを明確にし、主体的に学ぶ生徒を育成していきたい。 ・学力向上カウンセリング研修を活用し、教師の指導力向上を図っていき	・「学びの指標」の数値が1回目より2回目が向上し、どの項目についても市の平均を超えていることは生徒の学習に対する意識は高いと感じる。生徒の学習意欲や理解が進むような授業を今後も継続してほしい。 ・テストの空欄が多いことについては、少なくするための取り組みを検討していく必要がある。 ・家庭学習について、4割の生徒が十分に組み立てていないと考えると、課題の出し方を工夫する、取り組みやすい課題を設定するなど改善することが大切である。	
2	<現状> ・全国学力・学習状況調査において、肯定的な回答が、全国、県平均を上回った質問項目は、◎自分には、よいところがあると思いますか。 ◎先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。 ◎人が困っている時、進んで助けていますか。 ◎困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。 ◎友人関係に満足している。という結果から、自己肯定感や相談できる大人がいると感じている生徒の割合が高い。 <課題> ・全国学力・学習状況調査において、肯定的な回答が、全国平均とほぼ同じであるが、県平均よりやや下回った質問項目 △将来の夢や希望をもっていますか。 △学校に行くのは楽しいと思いますか。という結果から、継続的なキャリア教育や進路指導等の充実を図っていく。 ・引き続き、施設設備の安全点検と危険を予測した行動がとれる生徒を育成していく。	・生徒一人ひとりの細やかな教育相談に向けた校内体制の構築。 ・自己肯定感や自己有用感を更に高め、継続的なキャリア教育や進路指導への取組 ・安心安全な生活の実現に主体的に取り組む生徒の育成	・「おはようメーター」「心と生活のアンケート」等も活用し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握し、学校全体で支援の充実を図る。 ・「人間関係プログラム」で学んだことを日常の場面で意図的に取り入れ、学級で発言しやすい環境をつくることともに、クラスの一員としての役割をもち、活躍の場を設定する。 ・「『命の支え合い』を学ぶ授業」を通して、相談しやすい環境をつくる。 ・いじめ撲滅に向けた取り組みや、登下校時の安全指導及びあいさつ運動を生徒会や委員会を中心として行う。 ・毎月の安全点検を確実に実施し、破損箇所等の修繕を早急に行う。	・学校評価生徒アンケート「生徒理解・教育相談・生徒指導」に係る項目において、肯定的な回答の割合が90%以上か。 ・学校評価保護者アンケート、「生徒理解・教育相談・生徒指導」に係る項目において肯定的な回答の割合が80%以上か。 ・生徒会を主体としたいじめ撲滅に向けた取組を実施したか。 ・学校評価保護者アンケート「学校は、教育にふさわしい環境になっている」について、肯定的回答が90%以上か。 ・交通安全に対する意識が向上した」の肯定的回答が80%以上あるか。 ・全国学力・学習状況調査の生徒質問紙において、肯定的な回答が、県平均並みになったか。 「将来の夢や希望をもっていますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」	・学校評価「生徒理解・教育相談・生徒指導」については、生徒：90% 保護者73%で昨年とほぼ同じとなった。 ・おはようメーターや心と生活アンケートを活用し共通理解を図り丁寧な支援に努めることができた。 ・学校評価アンケートは、肯定的回答は89%と98%となり高い評価となった。 ・「将来の夢や希望をもっていますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」についても県平均を7ポイントと5ポイント上回る結果となり、生徒を中心とした話し合い活動や生徒会活動の充実を図ってきた成果が表れた。 ・破損箇所の早期修繕及び安全指導等計画通り実施することができた。	A	・引き続き、おはようメーター及び心と生活アンケートを活用し、よりきめ細やかで生徒の些細な変化を見逃さない指導に努めていきたい。	・生徒の学校評価アンケート「生徒理解・教育相談・生徒指導」に関する項目で9割を超える肯定的な回答が得られているのは、充実した学校生活に繋がっていると感じる。ただ、保護者の学校評価については、7割にとどまっている。生徒は、先生方の寄り添った対応に満足しているが、その取り組みや活動が保護者に十分伝わっていないために生徒と保護者で数値の差があるのではないかと感じる。保護者へどのように伝えていくか検討していく必要がある。また、学校だけで抱えることなく、各機関との連携をすることも大切である。 ・「人間関係プログラム」や「命の支え合いを学ぶ授業」などプログラムに対する手立てがしっかりとされているので、生徒のいじめは許さない意識や保護者からみて、学校は教育に相応しい環境になっていると感じられ、高い評価になっている。	
3	・学校運営協議会を小学校と合同開催とし、連携した教育活動が行われている。 ・地域の教育資源を生かした教育活動を行っている。 <課題> ・コロナが5類になったことで、地域の教育資源を本校の教育活動に更に生かしていく。	・目指す生徒像を地域全体で共有するためのICT活用 ・教育活動の公開	・学校だより、学年だよりを通して、子どもの活躍や教育活動の成果を発信する。 ・本校HPの充実 ・教育活動の公開。年2回の授業公開。体育祭、文化祭、合唱祭への地域の方々の参観も実施する。 ・生徒活動発表の場として、地域の行事や取組に参加する。	・学校評価保護者アンケートで「学校は、地域に開かれた学校づくりに努めている」の肯定的回答が90%以上 ・学校運営協議会委員のアンケートの関連項目で、肯定的な回答80%以上 ・保護者や地域の方々へ向けた学校公開（授業、行事等）を実施できたか。 ・地域の行事や取組に参加できたか。	・学校評価アンケート結果は、82%で次年度の課題としていく。 ・地域の行事等へ部活動がよく参加したこと、主催者側から感謝されている。 ・学校行事も含め学校公開は計画通り実施することができ、出席者に喜んでいただくことができた。	A A	・講演会等において、保護者や地域の方の参加を増やしていきたい。 ・学校家庭連絡アプリの利用を視野に入りたい。 ・学校運営協議会とも連携し、地域と学校のつながる活動を更に1つでも増やしていきたい。	・保護者の学校評価から一定の肯定的な評価は得られているが、学校だよりやホームページを活用して広報はしているものの、保護者に確実に届かない現状がある。改善策として保護者が直接見られるアプリを導入することを検討していく。テンプレートや表示方法を小学校と合わせることで、抵抗なく使えるのではないかと考えられる。 ・ボランティア活動については、さらに参加できることを増やしていく。	
4	<現状> ・情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、担当教諭等を中心に研究を更に進め指導力向上に努めている。 <課題> ・授業及び校務にICTを活用し、教職員の指導力向上と業務の効率化を図ること。 ・教職員の育成と学校経営・運営への参画意識を高める教職員組織の活性化。	・教職員の資質能力の向上と育成、教職員組織の活性化	・研究推進委員会を中心に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教科横断的な学習指導の実現を図る。 ・教員相互の授業公開を通して、教師がICTの効果的な活用に取り組む。 ・教職員の研修機会として年次研修、校務分掌に係る研修へ積極的に参加する。	・すべての教員が主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教科横断的な学習指導の実現を目指し、ICTを活用する状況になったか。 ・学校評価保護者アンケートで「教職員の学習指導項目」で肯定的回答が80%以上 ・教職員学校評価「授業における指導法の創意工夫評価項目で十分満足60%以上 ・教職員学校評価「学校全体の調和」で十分満足70%以上	・学校評価アンケート結果は、72%となったが、生徒が回答する「学びの指標」においては「ICTの活用」においては、市平均を超えることができた。 ・教職員学校評価「授業における指導法の創意工夫評価項目で十分満足は48%で、肯定的回答は、96%となり概ね良好である。 ・教職員学校評価「学校全体の調和」で十分満足は64%で、肯定的回答は96%となり概ね良好である。	B	・教員相互の授業公開を通して、ICTの効果的な活用について教職員一人ひとりのスキルを高める研修を行っていき ・研修推進委員会の組織を活性化させ、教職員の指導力向上に努めてい ・教職員組織や校務分掌の見直しを図り、教職員の育成と学校経営・運営への参画意識を更に高めていき	・教職員の学校評価「授業の指導方法の創意工夫」について肯定的な回答が9割を超える高い評価であるのは、生徒の学力向上や基礎学力の定着を意識した授業を日々行っている結果だと考える。今後も先生方の授業力の向上を考えていかなければならない。 ・ICT機器の活用が生徒のプレゼン能力、機器活用のスキルアップにつながっている。積極的に活用し、更なる向上につなげてもらいたい。	